

設備投資は持ち直し

<ポイント>

1. 設備投資は、企業収益の回復等を背景にして、製造業、非製造業ともに持ち直している(図1/2)。
2. 先行きについても、機械設備投資の先行指標である機械受注統計が持ち直していること等から、持ち直しの動きが続くものと見られる(図3)。
3. ただし、イラク情勢等から不透明感が増しており、設備投資についても今後の動向に留意する必要がある。

図1 実質設備投資の推移(QE)

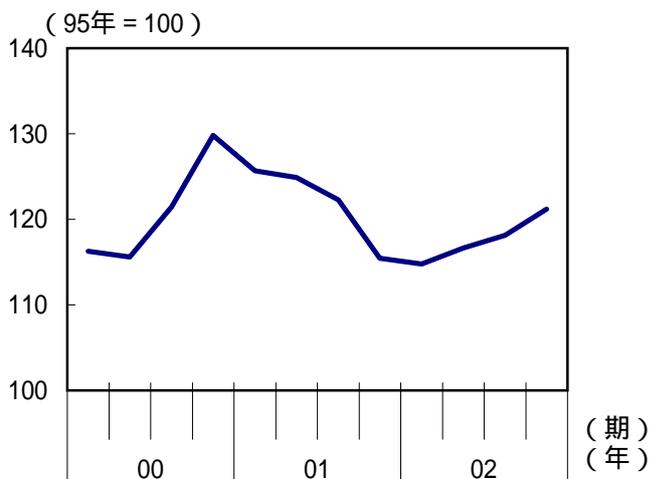
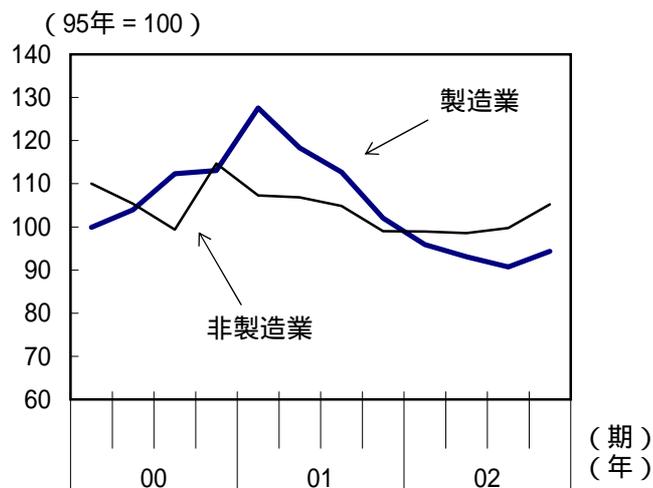


図2 製造業/非製造業別の推移(実質)

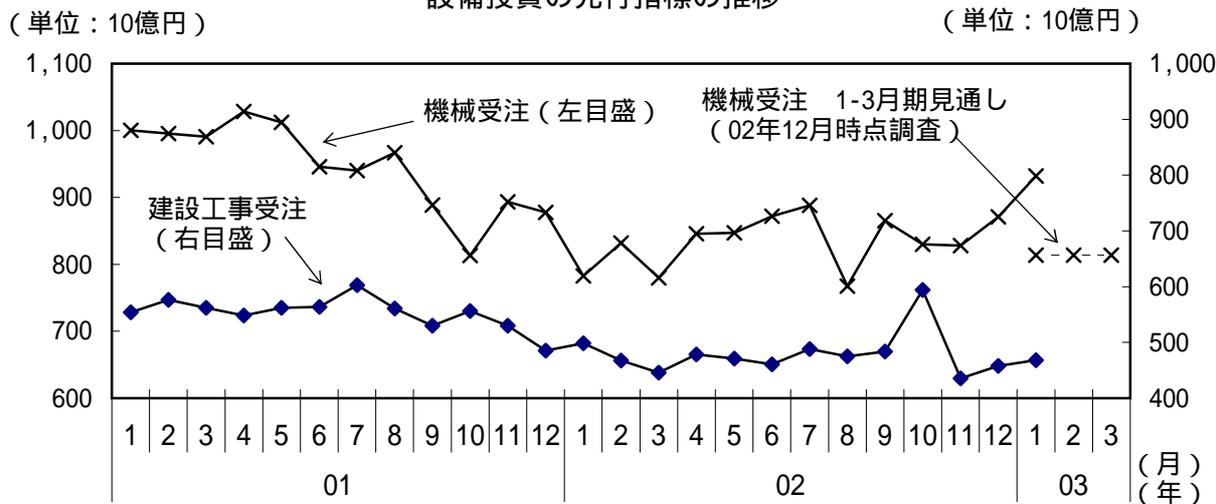


(備考)

1. 内閣府「四半期GDP速報」、財務省「法人企業統計季報」より作成。
2. 図2は法人季報の設備投資をSNA統計のデフレーターで実質化したもので、内閣府試算値。
3. すべて1995年を100とした指数値。

図3

設備投資の先行指標の推移



(備考)

1. 内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建設工事受注動態統計調査」より作成(季節調整値)。
2. 機械受注は民需(除く船舶・電力)。
3. 建設受注は、大手50社民間非住宅の受注額。